

## 事務事業マネージメントシート

作成日 平成23年 04月 26日

## 1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動）		⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移						
22年度実績	地域密着型サービス事業所の整備として、亀山地内にユニット型小規模特別養護老人ホーム1施設「特別養護老人ホームかめやまの郷」29床と認知症高齢者グループホームを大和田地内に「グループホーム五行の杜」9床・八木岡地内に「グループホームふれんど八木岡」9床の2施設整備し、補助金を交付した。	名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)
23年度計画	22年度に県に提出した実施計画書に基づき、中地内の小規模多機能居宅介護事業所「小規模多機能型の園」、認知症高齢者グループホームである久下田地内の「グループホーム尊徳」と石島地内の「グループホームさくら」の3施設にスプリンクラー等を整備し、補助金を交付する。	ア：交付件数	件				3	3
②対象（誰、何を対象にしているのか）＊人や自然資源等	真岡市内で地域密着型サービス事業所を開設する事業者及び既に開設している事業者	イ：交付額	千円				176000	8869
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか）	真岡市の要介護者等が適切かつ安全に住み慣れた地域で介護保険のサービスを受けられるようにする。	ウ：						
④結果（どんな結果（上位施策）に結びつけるのか）	高齢者が住みなれた地域で、人々と触れ合いながら安心して暮らすことができる。	エ：						
⑤活動指標（対象の大きさを表す指標）の推移	オ：							
⑥対象指標（対象における意図された対象の程度）の推移		名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)
事業費	ア：事業者数	人					3	3
人件費	イ：							
総事業費	ウ：							
⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移	エ：							
事業費	オ：整備された施設数	か所					3	3
人件費	イ：							
総事業費	ウ：							
⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移	エ：							
事業費	オ：整備された施設の定員数	人					47	43
人件費	イ：							
総事業費	ウ：							
⑨総事業費の推移	エ：							
事業費	オ：トータルコスト(A)+(B)	千円					177,707	0
人件費	イ：							
総事業費	ウ：							
⑩事務事業の環境変化・市民意見等	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	0	0	0	176,000	0
⑪この事務事業を開始したきっかけは何か？いつごろどんな経緯で開始されたのか？	介護施設の整備については、介護保険事業計画に基づき整備を行う。平成21年度に国において介護機能の強化と緊急的に雇用の創出を図るため、介護施設や地域介護拠点の整備に対する助成及び融資について3年間拡大することとされ、これを受けて栃木県は基金を造成し、県内の介護施設の整備促進を図ることとした。真岡市では第4期介護保険事業計画に基づき地域密着型サービス事業所として小規模特別養護老人ホーム1施設と認知症高齢者グループホーム18床を整備することとなっているため、地域介護・福祉空間整備交付金に比較して交付額の高い当該交付金を活用し施設整備の促進を図るために事業を開始した。	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	0	0	177,707	0
⑫事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	介護施設の整備については、介護保険事業計画に基づき整備を行う。平成21年度に国において介護機能の強化と緊急的に雇用の創出を図るため、介護施設や地域介護拠点の整備に対する助成及び融資について3年間拡大することとされ、これを受けて栃木県は基金を造成し、県内の介護施設の整備促進を図ることとした。真岡市では第4期介護保険事業計画に基づき地域密着型サービス事業所として小規模特別養護老人ホーム1施設と認知症高齢者グループホーム18床を整備することとなっているため、地域介護・福祉空間整備交付金に比較して交付額の高い当該交付金を活用し施設整備の促進を図るために事業を開始した。	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	0	0	176,000	0
⑬この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	0	0	0	177,707	0

## 2. 1次評価の部 \*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか? ・意図することが結果（上位施策）に結びついているか?	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 要介護者が住み慣れた地域で継続して生活できるよう支援することは、高齢者の自立と社会参加の支援に結びつく。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか? ・税金を投入して達成する目的か?	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 介護保険事業計画に基づいて実施しているので妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか? ・意図を限定・拡充すべきか?	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 介護保険事業計画及び法律に基づき実施しているので適切である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか? ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか? ・何が原因で成果向上が期待できないのか?	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 法律で定められているので向上余地がない。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 施設整備は、介護保険事業計画に基づく事業であり、休止・廃止した場合は事業者への負担が大きくなり円滑な施設整備ができなくなり、影響がある。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか?	<input type="checkbox"/> 類似事業がある（類似の事務事業名を記載） <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか?	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか? (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 法律で定められており削減余地がない。
	⑧人件費（延べ業務時間）の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか? ・成果を下げずにより正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 必要最小限の人件費で実施しているので削減の余地はない。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか? ・受益者負担が公正・公平になっているか?	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 法律で定められているので公平・公正である。

## 3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性（改革案・実行計画）  <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し ( <input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？	(3) 改革・改善による期待成果  <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持																								
	低下																								

## 4. 事務事業の2次評価結果（事業の総括と事業の方向性）

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合  <input type="checkbox"/> 記述説明不足（説明責任不充分） <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(2) 2次評価者としての評価結果  ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり    ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり    ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	(5) 改革・改善による期待成果  <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持																								
	低下																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性  <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）																									
(4) その他2次評価会議で指摘された事項																									